石垣市北部農村集落活性化協議会（ゆんたみ）

幅広い世代が集う。皆で考え取り組む農業で地域を盛り上げたい！

石垣市北部にある13の公民館で「石垣市北部農村集落活性化協議会」なる組織を立ち上げるにあたり、それぞれの地域で代表メンバーを募集した。多くは公民館長が選出されていたが、ここ伊野田では、移住してきたばかりの宮城奈美子さん（当時30代）が「是非、仲間に入れて下さい。」と手を挙げた。

元は石垣市街地で暮らしていたが、農業に関心があったこともあり、出産を機に義理の祖父母が畑を持つ伊野田への移住を決めたのだった。しかし早々に、保育園の休園問題へ直面する。「このまま何もしなければ、地域の教育にお金が使われなくなり、皆の暮らしに影響が出てくるのでは…」強い危機感を持ち、自分にできることをやりたいと思ったそう。この限界集落の自然の中で、まずは「当たって砕けろ！」の気持ちもあったという。

もう一度、農業を！

取組みが始まった1年目はビジョン作りを行った。活用できる助成金もあったため、地域のおばあたちを集めて「何かやってみたくない？」と話し合いの場を持った。色んな案が出たが、最終的には「農業をやりたい。もう一度、畑を学んでみたい。」という意見で一致。畑の開墾に散々苦労した開拓世代であるのに、その前向きな発想には正直驚いたという。

また、畑とは不思議なもので、その中では大人も子供も関係なく皆同じ目線で学ぶことができる。若い人も巻き込むことができれば、地域活性化の要になりうるのではないか。そんな確信が芽生えたのだそう。

しかし、活動が軌道に乗るまでは大変なことも多かった。助成金の申請等にかかる書類作成では、慣れない事務作業に悩まされ、畑で獲れた野菜を直売する際は、素人が作った野菜を買う人がいるの？と心配する声もあった。今となっては笑い話だが、そうやって様々な困難を乗り越えてきた。

イベント時の様子。マーニの葉を組み立て秘密基地に（左）
月桃の葉を使ったおむすびつくり（右）

市街地の親子に向け、食育イベントを開催

ゆんたみの現在の活動は、①無農薬の野菜作り、②学校給食への野菜納品、③葉っぱ包装や真空パックでの商品ブランド化、の三本立て。給食については、地産地消を推進する意味でも、自分たちの手で作った安心安全な野菜を食べて欲しいとの思いを込めている。

これに併せて、市街地在住の親子へのアプローチとして食育活動も実施中。写真で紹介しているのは「親子でトマト植苗会さばいばる講座」というイベント。3組の親子の参加があり、トマト植苗や秘密基地つくりの他にも、薪

カテゴリー	環境保全／地産地消・食育
住　所	石垣市字真栄里672（石垣市役所 農政経済課内）
電話番号	0980-82-1307　　設 立　2015年　　人 数　10名
主な活動	農業を通した地産地消と食育の取組み
利用施策	地域づくりイノベーション事業（R２～３年度）

割りや火起こし、月桃の葉を使ったおむすび作りなど、自然での体験を楽しんでもらった。北部地域での循環型の暮らしを発信して興味を持ってもらうことで、ゆくゆくは移住に繋げることができればと思っている。

それぞれの役割で活動を支える、個性豊かなメンバーたち

活動の中心メンバーである
宮城奈美子さん

子供と女性が輝く地域に！という考えのもと、ゆんたみでは、30代～80代までのパワフルな女性が中心となって活動しているが、男性陣からの心強いサポートもある。「伊野田の太陽」と呼ばれる清正さんは「自由に使え～」と所有している畑の一部を提供してくれた。チャレンジ農園と名付けられ、前述のイベントもこの畑で開催された。

メンバー最年少のゆいちゃんは、真面目で頑張り屋。1年前から養鶏に取り組み始め、今では170羽を飼育している。そして、熟女三姉妹（通称）といわれる経験豊富なメンバーの存在も大きい。精神的な支柱として、ゆんたみの活動に積極的に参加しながら、温かく見守ってくれているのだ。

主役は、地域を支えてきた方たち

「今後は、学校給食へのより安定的な供給を目指し、野菜のバリエーションももっと増やしたい。熟女三姉妹のけいこさん（次女）が手作りする味噌と旬の野菜をコラボさせた野菜バスケットも考案中で、ネット販売にも着手するつもり。」と、中心メンバーである宮城さんは笑顔で語る。「でも、あくまでも私は縁の下の力持ち。ずっとここに住んできて、歴史を沢山持っている方たちを幸せにしたいから。」お互いが尊敬し合い、歩み寄る姿が地域の原動力になっているようだった。

毎週日曜日、自分たちで作った野菜等を直接販売している。
当所は「ナナンガーラ」の愛称で憩いの場にも